

J05-03 離岸・着岸

Launching and Docking

1 離岸

艇を浮かべてから、離岸するまでを、解説します。

艇を水面に浮かべ、オールをオールロックに装着。

沖側のオールを出す。

沖側のレール(または中央のステッププレート)に足をかける。指示:「両舷, 足かけて」

をやさしく蹴る。指示:「けりだそう, 1・2・3」

静かにシートに座り、ストレッチャーに足を入れる。

他艇の離・着岸を妨げない、安全な位置まで離れる。

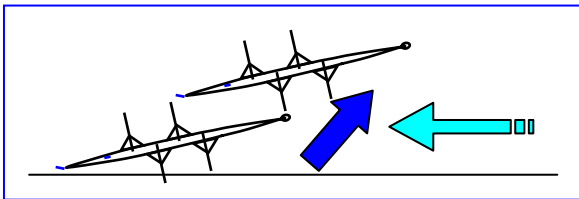
オールロックのゲートを実際にロックし、ソックスを履き、ストレッチャーに足を固定、スライドや各部の固定を確認する。



出艇・離岸(けりだし)

応用: 蹴りだしと同時にすぐに岸から離れたい場合、クォドではアウトペアが先に乗り、スィブ艇では岸側の漕手が先に乗り、沖側漕手と舵手が蹴って乗り、同時に岸をブレードで押し漕ぎ始めるといった方法もあります。その場に応じて、安全で確実な離岸の方法を考えます。

流れに対しては「逆流で離岸」: 艇が岸から離れやすいように、逆流方向に発艇するのが原則です。強い順流では、岸に沿って流され危険です。艇を水面に置くときにすでに方向を考えておくべきですが、もしパウが下流方向に向けた状態に浮かべた場合は、バックロウで岸から離れるようにします。



逆流方向に離岸することが原則

2 着岸

Basic Technique

飛行機の着陸が離陸より難しいのと同じで、着岸は離岸より技術を要します。単純な船台への着岸の基本手順は、以下の通りです。

流れの下流側から岸に接近する。

降りる用意。オールロックのゲートピンを少し緩め、シューズを緩め靴下を脱ぐ(整備された棧橋では不要の場合も)。

岸に斜めに接近。(約20~30°程度で、流れにあわせて艇速を調整。速すぎることも遅すぎることも危険。)

離・着岸は、流れと風を計算に入れながら、逆流方向に適切な角度と適切な速度で、岸と接触しないように。

沖側のサイドがバランス~ストップロウ。そして微調整。

(スターンコックス艇では)パウか舵手が降り、艇を抑える。

バランスを保持しながら、順番に降りる。



適切な進入角度と艇速の制御が大切。脚はガンネルにかけないで。



足を出すのは艇をぶつけないためには有効なこともあるが、ガンネルやリガーには体重をかけるべきではない。(朝日R 2004より)

注意点:

- ・ 岸に接触しないように注意する。艇全体を意識すること。
- ・ 初心者では岸側のオールと船台の関係に気をとられ、艇本体が離れすぎて適切な位置で進入できてないことが多い。
- ・ 慎重のあまり、進入速度が遅すぎてまずいこともある。

3 補足: 陸上からの補助

Support from the ground

クルーは、独力で離・着岸できるよう練習すべきで、安易に陸上からのサポートに頼ってはいけません。補助者がいても自分で着岸まで持っていきたい場合は、補助をお願いするタイミングを申告して良いでしょう。また補助者に手伝わってもらったら、忘れずにお礼を言きましょう。

陸上にいる補助者は、安易に手を出さず、まずクルーの技量と意思(独力でつきたいのか手伝わってもらいたいのか)を確認しましょう。手伝う場合、ブレードの押し引きは、シャフトを水面と平行にするよう心がけます。

